



## 「京都府南部地域豪雨災害記録集」

の発刊にあたって

宇治市長

山本 正

平成24年8月13日から14日にかけて、宇治市では最大時間雨量78.5ミリ、累計雨量311ミリを観測する豪雨により、市内の弥陀次郎川が一部欠壊したほか、志津川や戦川、新田川などの河川が氾濫するなど市内各所に大きな爪痕を残しました。この災害により、死者2名のほか、市内全域におきまして、2,000棟を超える建物の被害をはじめ、崩れた土砂や土石流による多数の道路や河川の被害、土砂流入による茶園や田畑などの農林業被害など、甚大な被害が発生し、特に、炭山等の山間地では、道路が全て遮断され、ライフラインが寸断されるなどにより、一時、地域が孤立した状態になりました。

近年、経験したことのない大きな被害を受ける中で、本市では、国や京都府をはじめ、応援自治体、各関係機関・団体の皆様や多くのボランティアの方々のご支援を得て、全庁挙げて災害の対応に取り組むとともに、被災した河川や道路などの復旧のため、「宇治市災害復旧計画」を策定し、早期の本格復旧を本市の最優先課題として取り組んできたところです。

また、この災害を踏まえ、新たに危機管理監を設置するとともに、本市地域防災計画の改定を行うなど、危機管理体制の強化・充実を行ってきており、早期に市民生活の回復を図るとともに、さらに「災害に強い安全・安心の宇治づくり」を推進してまいります。

そして、この水害を決して忘れることなく、教訓としてしっかりと次代に伝承し続けることが、本市の防災力の強化につながるものとの思いから、今回、「京都府南部地域豪雨」を記録集として編集・作成いたしました。

今回の作成にあたっては、多数の市民の皆様及び関係機関から貴重な資料をご提供いただきましたことに、厚くお礼を申し上げます。